

## 美術學校と西洋畫(上)

(黒田清輝氏の談話)

東京美術學校が洋畫科を置くことになりしは我れに於ける美術史中特筆すべき一現象なり一進歩なり洋畫界の振興と共に我が美術なるものを高めたる美學と謂ふべし

特ひとり斯界のみならず世人は其洋畫科の如何なる者なるやに留意するや切なり今同校に於ける洋畫の開拓者黒田清輝氏の談話を掲げて之を紹介す

◎美術學校が洋畫科を置いて余が之を擔任することになりしに就ては余は出來得る限り自由即ち規則などに束縛せられない様な工合にして學生の習學に便する考へ…渾すべて自分が此學校に入らうと思つたり生徒に爲つて勉強して居ると假定めた時は何ほどふであらうと自分を其境遇に置いて考へを立て、往きく積みりです、往きく積みりです、ればとて數學などは餘り厳しく爲たくない、畫を習まふうといふのに數學で入學が出來ぬのも愚な譯、畫を習はせやうといふ精神にも違ふ譯、彼學校に入いるのには中學校以上の學力を有もつて居る證明を要するといふので普通の教育があるとは極つて居ればそれで澤山である…而そうして入學者の力に依りて、二年にも入れ、三年にも取る積みりです、

◎この洋畫科は都合四年の學期で第一年は石膏物の寫生、第二年は人物即ち裸躰等の寫生、此二年は木炭で第三年に至り、油繪を習はせ、第四年を以て卒業試験に充てる次第で…勿論繪の具の使ひ方など油繪に掛る仕度とでも云ふ

べきとは一年二年の間に於て適宜に習はせる、ソコデ

◎美術解剖―日本の油繪家あぶらえがきで眞の人間の死骸を前に置いて、解剖を研究したものは恐らくは無かるう…造り物の死骸ではあるかも知らぬが…斯る材料は官設の學校になると非常に便利が多い、此度美術學校では久米君が擔當して美術解剖即ち筋と骨に就きて二年三年の洋畫科學生に授けるのです

◎一年二年の間と雖も風景等の畫は其地に臨み寫生やで學まらせる積りです…總べて繪手本あてを給あてがうといふとはしない唯だ美術學校には古畫の印刷畫などがありますから之を給あてがツて筆の使ひ方を研究させる積りです

◎繪畫ゑがに於ける腦裏のうりの教育即ち人物の置き方、光線の取方、色の配合など其想像力を養ひつゝ繪を教へて往くには勢いきひ課題かだいが必要ひつ殊ことに歴史畫れきしゑなる時は其想像力を及ぶ限り廣ひろげるとに便利べんりが多いソコで三年生となれば毎週まいしゅうに一回位宛歴史畫の課題を與へて腦裏のうりの教育きょういくをする積りです

『毎日新聞』明治二十九年六月七日